

研究ノート

児童の英語学習機会の充実等の改善

—教育効果の検証を受けて—

荒川区立尾久第六小学校 高 橋 美 香
帝京大学教職センター・教育学部 松 波 紀 幸

<要 旨>

筆者らは、都内公立A小学校において、児童の英語学習機会充実等が児童らにどのような教育効果をもたらすか、当該小学校の英語学習における実践の効果について分析し報告を行った（高橋・松波2021）^[1]。本稿では、当該分析で得られた指導改善の留意点を基に、指導の重点化を図るとともに、児童の意識についての経年変化を踏まえた教育実践の改善を行った。その具体を報告する。

<キーワード>

英語学習 外国語 外国語活動 教育実践 指導法の工夫

1. はじめに

2003年度より構造改革特区、引き続き2019年度まで教育課程特例校に指定された自治体に都内公立A小学校（以下、A小学校）では、平成29年度告示学習指導要領の標準時数を上回る教育課程を先行的に編成し、単元開発及び授業実践が行われた。筆者らは、児童の意識調査を基に、その効果を検証するとともに、指導改善における留意点を明らかにした（高橋・松波2021）。指導改善における主な留意点は次のとおりである。

- 中学年以上には「英語が好き」であることが望ましい姿勢ⁱに関係があることから、児童が「英語が好き」になるよう指導の工夫が求められる。
- 高学年になると「英語が好き」だけでなく「英

語の授業が好き」であることが望ましい姿勢に関係してくることから、授業内容そのものが魅力的である必要がある。

- 高学年児童を授業に積極的に参加させるために、単なる繰り返しの活動でなく、「必然性が生まれる学習内容」ⁱⁱ「メインアクティビティの工夫」が重要である。
- 授業でよく取り入れられるゲームだけでは児童が望ましい姿に変容しないため、その目的や内容を十分吟味しながら、他の言語活動と組み合わせて、ゲームを活用していく必要がある。

A小学校では、検証の結果明らかとなったこれらの指導改善の留意点を受けて、校内で授業実践の柱等について再検討を行った。本稿ではその検討過程や、検討を受けて計画した実践の具体、さらにその検証結果について述べる。

2. 目的

A 小学校における、第1学年からの系統だてた指導計画に基づいた授業実践、併せて児童の3か年の意識調査について報告する。

3. 方法

3.1 A小学校における教育実践の具体について

3.1.1 柱建て変更の経緯

A 小学校では、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～児童が『話したい』『聞きたい』と思える授業づくり」を主題に設定し全学年分の単元開発を行った。ここでは、第1学年から第4学年までは週1単位時間(第3,4学年については週1回の短時間学習も設定)、第5,6学年週2単位時間の年間指導計画を作成した。その際、次の3点を柱としつつ、授業実践を行った。

①コミュニケーションにつなげるinputやoutputⁱⁱⁱ

②単元メインアクティビティの工夫

③必然性をもたせた学習活動

A 小学校では、高橋・松波(2021)の報告を基に、さらに授業実践を積み重ね、前述①～③の柱について教員で協議を重ねつつ整理を行った。これにより「②単元メインアクティビティの工夫」と「③必然性をもたせた学習活動」について、明確な線引きが難しく、単元メインアクティビティの工夫の中に、必然性をもたせた学習活動が包含されると判断した。同時に、「児童が『話したい』『聞きたい』と思える授業づくり」には、教材・教具の工夫という視点が欠かせないことも明らかとなった。そこで、2021年度に研究の柱を以下のとおり再設定することとした。再設定に当たっては、教員の協議の上、授業づくりに特に重要であると捉えた順に示すこととした。

ア 単元メインアクティビティの工夫(含 必然性)(前述 ②および③)

イ コミュニケーションにつなげるinputやoutput(前述①)

ウ 教材・教具の工夫

3.1.2 実践研究の各柱について

ア 単元メインアクティビティの工夫

小学校学習指導要領^[2]「外国語」「外国語活動」の目標に「(前略)言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎(素地)となる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。ここで言う言語活動とは小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック^[3](以下、ガイドブック)p.23によれば「『実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う』活動」を意味している。そこで、単元のメインアクティビティは、単元前半のinputを生かして児童が「話したい」「聞きたい」と思える言語活動となるよう、小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編^[4](以下、解説)、ガイドブック等を基に、校内で実践と協議を重ねた。これにより、以下4点を意識して単元メインアクティビティを設定するようにした。

- a コミュニケーションを図る相手を明確にし、相手意識をしっかりとらせること
- b 児童の興味・関心に合った題材を取り上げ、必然性のある活動とすること
- c 自分の本当の思いを伝え合うこと
- d コミュニケーションの楽しさを実感できるようにすること

なお、前述a～dについて、校内で検討した理由は次のとおりである。

「a」コミュニケーションを図る相手を明確にし、相手意識をしっかりとらせることについては「外国語活動」「外国語」の解説を参照すると、学びに向かう力、人間性等の涵養に関わる目標として「(前略)相手(他者)に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」と示されている。そこで、コミュニケーションにおいて、その相

手を意識し、その相手へ配慮することの重要性を示していると考え設定した。

「b」児童の主体性を引き出すには、ガイドブック p.19 によれば、児童が伝えたい学習内容を工夫し、伝え合う必然性のある学習活動とすることが大切である。そこで、児童にとって身近で興味・関心のある題材を取り上げ、伝え合う必然のある活動となるよう設定した。

また、児童の興味・関心がある題材を選んだとしても、機械的な会話練習や単なる繰り返しに終始すれば、児童の意欲はそがれてしまう。学習指導要領にも「やり取りをする力を育成するための学習形態の工夫」について、「その際、機械的な練習にならないよう、多様な言語の使用場面を設定したり、既習語句や表現を使用して、会話を広げるよう促したりする指導の工夫が考えられる。」と示されている。伝え合うことで新しい情報を得たり、相手のことを理解できたりする活動を大切に、これが他者理解、ひいては自己理解にもつながると考えた。

さらに、前述ガイドブック p.23 記載の「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を行うに当たって「c」自分の本当の思いを伝え合うことを意識的に設定することで、コミュニケーションへの意欲が高まると考えた。例えば、“What sports do you like?” に対して、Flash Card を見ながら機械的に、(or ビンゴゲームに勝つために) 自分の思いとは違う “I like tennis.” を伝えるような活動ではなく、自分の思い “I like baseball.” を伝えることでコミュニケーションが活性化するよう、クラスの人気スポーツランキングづくりのような活動を意識的に設定した。

最後に、「d」コミュニケーションの楽しさを実感できるようにすることについてであるが、児童にとって、楽しさは活動への強い動機付けとなる。そこで、「コミュニケーションの楽しさ」とは何か、校内で実践と協議を重ねた。これにより、聞き手については「相手の話したことが分かった」、話し手については「自分の話した

ことが相手に通じた」ことであると考えた。また、解説 p.131 「内容の取扱い」に「相手の発話に即座に反応したりしながらやり取りを行う活動」について示されている。表情やジェスチャーに加え、“It’s nice.” “Really?” など相手の話に反応したり、“Oh, you like baseball. Me, too.” など相手の発言を一部繰り返したりすることで、相手に「通じた（理解できている）」ことを伝えられる。

そこで、本実践においては、コミュニケーションの楽しさを実感できるように、計画的に反応の語彙を増やし、繰り返しの表現を授業で取り扱うこととした。

イ コミュニケーションのための input や output

主体的に児童が自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりするためには、まず、児童の英語に対する不安を取り除き、児童に自信をもたせることが大切であると考えられる。そのために、output の前に、方法を工夫しながら繰り返し input することを大切にしてきた。繰り返し input することで、児童は「このように言えばよいのか」と分かっていく。特に単元前半において input を大切にし、学年の発達段階に応じて、歌やチャンツ、ゲームなどを取り入れ、児童が楽しみながらコミュニケーションに必要な言語材料に繰り返し触れることができるよう工夫した。

単元後半では、input を基に output していく。完全に input しないと output できないと考えるのではなく、単語や英文を全て理解できていなくても output してみようという意欲を大切にした。そのためには、学級の学習集団づくりが重要な要素となる。「間違っても大丈夫」という安心できる学級の雰囲気、頑張ろうとしている友達を認め、応援する姿勢、このような学級づくりも大切にした。

なお、単元前半だとしても input のみの授業とならないように留意し、1 単位時間の中で自

分のことを話す場面を作り、言語活動を通した授業となるよう配慮している。

ウ 教材・教具の工夫

英語教室の教材用の棚に、絵カードやミニカード、ビンゴシートなどの教材をトピックごとに整理している。单元の中で、どのような教材・教具を使うと効果的かを考え、整理されている教材を活用したり、編集したり、新たに作成したりしている。また、单元の特性に合わせ、電子黒板やタブレットPCといったICTの活用も積極的に行っている。

さらに、校内の階段や踊り場を活用してアルファベット、数や形、教科などといった身近な単語を掲示したり、外国人指導助手（Native English Assistant）（以下、NEA）の出身国の紹介コーナーを作ったりして、日常生活の中で児童が自然に英語や海外の文化に親しむことができるように工夫している。

3.1.3 授業実践例

上記研究の柱の具体を示すために、本項では以下A小学校における第5学年の実践例を示す。なお、本実践と関連の深い既習事項は次のとおりである。第1学年で扱った果物・数字1～12、第2学年で扱った野菜・数字1～20、第3学年で扱った料理、第4学年で扱った序数（数字含む）1～31の語彙及び第1学年から繰り返し扱った表現I like ～。類似する言語活動の場面は、第2・4学年「買い物」、第4学年「レストラン」である。詳細はA区英語科指導指針^[5]を参照されたい。

(1) 单元名

I'd like pizza. オリジナル・メニューをつくろう（全7時間）【A区小学校英語科Lesson Plan^{iv}・ONE WORLD Smiles 5年 Lesson7】

(2) 单元の目標

食べ物や料理、値段の言い方を理解すると

もに、丁寧な表現を使って注文したり注文を受けたりするやり取りをすることができる。

(3) 言語材料

What would you like? I'd like ～. How much? Check, please.

pizza, sandwich, hamburger, ice cream, pudding, salad, spaghetti, steak, omelet, fried chicken, soup, orange juice, apple juice等、100～990、家族（grandfather, grandmother, father, mother, brother, sister）

(4) 関連するA区英語科指導指針における領域別目標

【聞くこと】「イ はっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。」

【話すこと [やり取り]】「ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。」

(5) 单元の評価規準

【知識・技能】

<知識>・聞くこと

食べ物や料理、家族や値段、注文する表現、What would you like? How much? Check, please? 等の基本的な表現について理解している。

<技能>・聞くこと

何を注文されたのか、いくらなのかを聞き取る技能を身に付けている。

<知識>・話すこと [やり取り]

食べ物や料理、家族や値段、注文する表現、What would you like? How much? Check, please? 等の基本的な表現について理解している。

<技能>・話すこと [やり取り]

レストランで注文をしたり、注文を受けたりする技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

自分たちが作ったオリジナル・メニューを、相手に伝わるように配慮しながら、注文したり注文を受けたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

自分たちが作ったオリジナル・メニューを、相手に伝わるように配慮しながら、注文したり注文を受けたりしようとしている。

※聞くことの「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、本単元では評価は行わない。

(6) 児童の実態

本学級の児童は、第1学年から週1回の英語授業を受けてきている。元気よく歌を歌ったり、積極的に発言したりする児童もいるが、身に付くのに時間がかかったり、活動内容や学習内容の意味が分からないと消極的になったりしてしまう児童も多い。そのため、児童が興味をもてるものや身近な話題を題材に取り入れながら、授業を展開していくことを大切にする。どの児童も英語を学びたい、話せるようになりたいと思えるように、まずは分かることの楽しさを味わえるよう工夫する。話す内容を明確にし、児童が簡単な言い方から繰り返し学ぶことで、自信をもって英語でコミュニケーションを図ることができるようにする。丁寧な表現を使って、気持ちを込めてやり取りをする活動を通して、相手のことを配慮しながら伝える力を身に付けさせたい。

(7) 単元について

既習の食べ物・飲み物、家族の言語材料に加えて、新しい料理名やWhat would you like?

How much? Check, please. などの表現を用いて、自分がほしい料理を伝え、聞き手は何を注文しているのか聞き取り、やり取りが出来ることを目指す。活動の中で繰り返し表現を使いながら身に付けさせていく。さらに外国の料理やお勧めしたい日本の料理について考えさせる

ことで、異文化への理解を促し、自国の文化を発信していくだけでなく、他国の文化にも関心を広げられるようにしたい。

(8) 研究主題に迫るための手だて

ア 単元のメインアクティビティの工夫

既習の食べ物や料理名以外の表現も理解した上で、自分が好きな料理を注文したり、その注文に応じた金額を伝えたりするロールプレイの場を設定する。自分の好きな料理を選び、それを伝え合うことで活動が成立するため、「話す」「聞く」必然性が生まれると考えられる。また自分の好きな料理を選ぶことにより、主体的にその表現に慣れ親しもうとする態度が期待できる。終末のメインアクティビティでは、作る相手を意識したオリジナル・メニューを考えさせることによって、友達に伝えたいという意欲（必然性）につなげていく。

イ コミュニケーションのためのinputやoutput

短時間学習を活用し、カードに書かれた料理名や家族の言い方を繰り返し聞かせたり、1000未満の数をスムーズに言えるようにゲーム等を取り入れたりしながら、inputやoutputを行う。

wouldを使った丁寧な表現に慣れさせるとともに、doとの使い方の違いにも気付かせながらinputできるようにする。

ウ 教材・教具の工夫

絵カードを活用しながら、食べ物・飲み物を注文している状況を児童がイメージしやすくなるように工夫する。実際の写真も取り入れることによって、活用場面をより具体的に思い描けるようにする。注文を聞き取る際には、オーダーシートを活用し、児童が聞き取った内容を整理したり、値段を明確に伝えたりするための手だてとする。

(9) 単元の指導と評価の計画

※付録1参照

(10) 本時の学習

※ 付録2参照

本授業実践の結果、児童らには、自分の好きなピザを作ることを楽しみながら、また、友達の好きなピザを作るためにしっかり聞き取ろうと反応しながら活動する姿が見られた。特にcustomerの注文を、shop staffとcookが「一緒に聞きとって」、金額を伝えたり、ピザを作ったりすることで、聞く負担を軽減することで、積極的にコミュニケーションを楽しむ姿があった。

4. 実践研究における調査分析について

A小学校においては、2019年度、2020年度2021年度の3カ年にわたる児童に対する意識調査データを保有している。しかしデータを識別番号等により、個々人に紐づけていないため、詳細な経年比較を行うことは出来なかった。一方、各年度ともに同じ調査項目で児童の意識調査していることから、全体の傾向を把握することで、指導の効果を検証することとした。

4.1 本調査の目的

児童の英語に対する意識を定期的に調査し、変容を見取ることで、教師が児童の英語に対する意識を把握し、授業づくりに役立てていく。

4.2 実施時期

- 毎年5月（2019,2020,2021年度）
- 2019年度は、学期ごとに1回実施し変容を確認したところ、変容はほぼ見られなかったことから、年1回の実施とし、学年ごとの変容を確認し、授業づくりに生かすこととした。

4.3 調査内容

- 5,6年生 全41問
- 3,4年生 全18問
- 1,2年生 全6問
- 肯定・やや肯定・やや否定・否定の4段階で

回答（問6以外）

- 全学年共通であるが、1,2年は冒頭6問のみ、3,4年は冒頭18問のみとした。

全学年共通の質問事項としては、英語授業や英語そのものが好きか否か、また本校の目指す児童像に係る、外国の人が話しかけてきたら、どのように対応するかを尋ねた。また、3～6年生については、前述に加え、英語の授業について、歌を歌うこと、ゲームをすること、発音練習すること、他者と会話すること等その具体的活動について、どの程度好きか否か尋ねた。また、あわせて授業内容全般の理解の程度についても尋ねた。5～6年生については、前述に加え、英語の授業で取り組みたい内容やこれから英語を用いてやりたいことを尋ねた。具体的な調査項目については、高橋・松波（2021）参照。

4.4 結果

- 「A区小学校英語科Lesson Plan」を基に児童の実態に合わせ、児童の興味・関心に合った題材を取り上げ、必然性のある活動とすることにより、児童が「話したい」「聞きたい」と思える授業を組み立てることができた。
- アクティビティでは、表現の練習に終始することなく、自分が本当に言いたい内容を伝え合う「言語活動」になるようにすることにより、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿を見ることができた。
- 繰り返し聞いたり言ったりするなど、inputを大切に言語材料に慣れ親しませ、スモールステップでoutputできるような活動を設定することにより、児童が自信をもって英語で表現できるようになった。
- 授業のねらいに沿った教材や教具を工夫したり、ICTを活用してデジタル教材等を提示したりすることによって、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- NEA、AD（英語教育アドバイザー）と指導法や準備について打ち合わせをした上で、連携して役割分担をしながら授業を行うことに

より、教員の英語科における授業力を向上させることができた。

4.5 考察

どの設問でも肯定的な回答の割合が高く、ほぼ9割に達している。英語や英語の授業に対して、肯定的な意識が高い。本校では、高橋・松波（2021）の分析結果から得られた指導改善のポイントを踏まえ、児童の興味・関心を生かした授業づくりを行っており、その継続・推進が児童の主体的な学習につながっていると考えた。

学年が上がるにつれて否定的な回答が特に増えることなく、肯定的な回答の割合が高いまま持続している。高学年になっても英語の授業を楽しいと思える割合が変わらないことは、指導改善に継続して取り組むA小学校の大きな特長といえる。また、全学年とも「英語の授業が好き（図1）」「英語が好き（図2）」に対して肯定的な回答を占める割合が高く、児童にとって「英語の授業」や「英語」が身近で楽しいものになっていることが分かる。また教員にとってもメインアクティビティを工夫し、ゲームの目的や内容を吟味しながら授業づくりを行ってきた成果が表れていると考えた。

問6「もし外国の人が話しかけてきたらあなたはもうどう思いますか」は、英語学習を通じた児童のコミュニケーションの姿勢を示す設問である。低学年ほど「英語で答える」が多いが、学年が上がるにつれて、どの学年でも「英語で答える」が減少し、「身振り手振りなどで答えようとする」が増加している（図3）。英語によるコミュニケーションに慣れ親しむ中で、実際の場面で英語のみを活用して対応する難しさを認知し、学習した「身振り手振りが理解の助けになる」ことを生かそうとしていることの現れであると考え（高橋・松波 2021）。

なお、2019年度から2021年度の児童意識調査回答に関する経年変化の詳細は、A小学校研究紀要・学習指導案集^{〔6〕}に掲載しているので参照されたい。

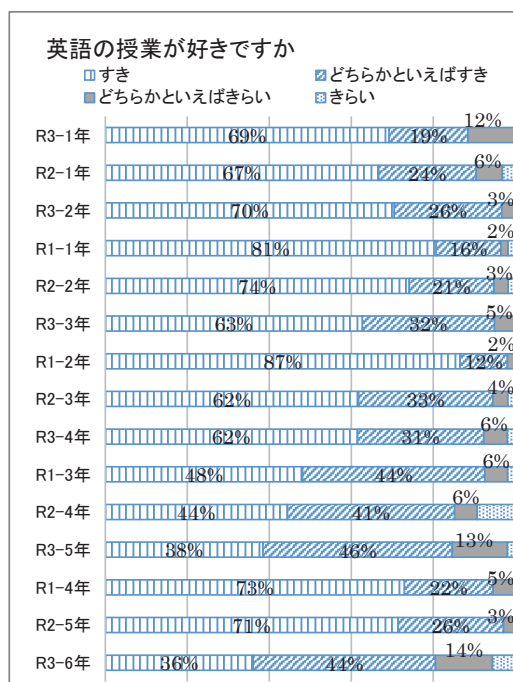


図1 英語授業に対する児童の意識

※図中の値は、回答の割合を表す。2019(R1)、2020(R2)、2021(R3)年度の回答を基に作成した。

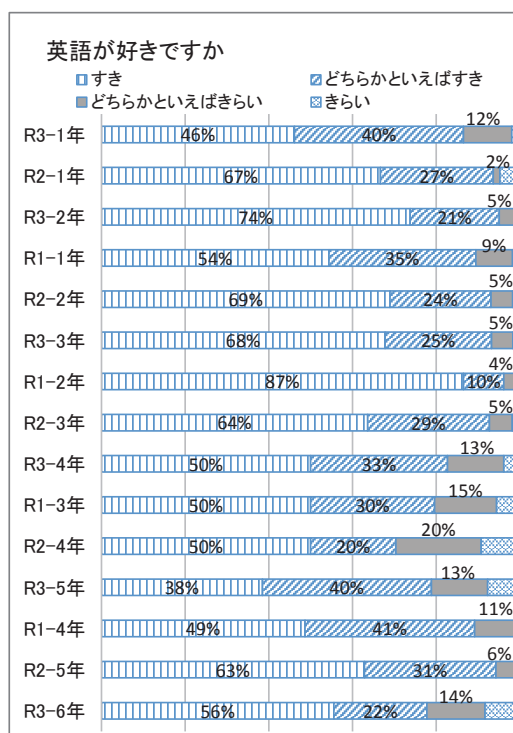


図2 英語に対する児童の意識

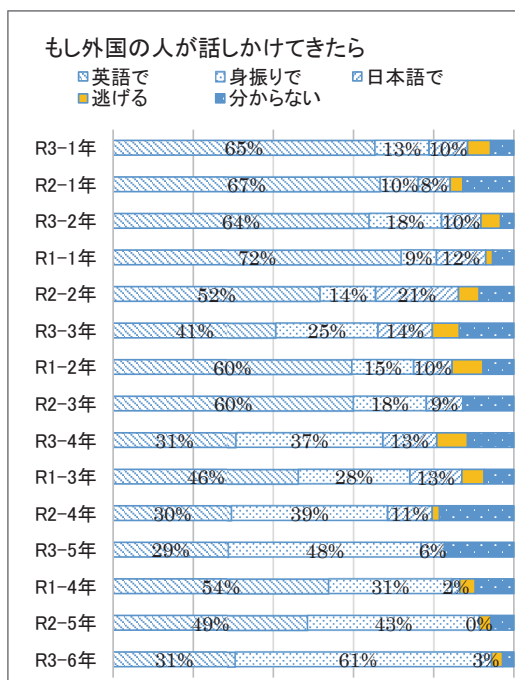


図3 外国人に話しかけられた際の対応についての児童の意識

5. 今後の展望

A小学校では、教員が真摯に協議を重ね、指導改善の柱「単元メインアクティビティの工夫」「コミュニケーションにつなげるinputやoutput」「教材・教具の工夫」を基に、「児童が『話したい』『聞きたい』と思える授業づくり」に取り組み、単元開発を行った。併せて実施した意識調査の結果から、大部分の児童に英語や英語の授業に対する肯定的な意識が育まれていることが分かった。

児童の英語に対する肯定的な意識が持続され、主体的な学習となっていくよう、自信をもって話せるようになった児童には、さらに「言える人はこれも言ってみよう」というチャレンジパートを設定するといった工夫も考えられる。今後はそうした指導法の具体について検討したい。また、集団での活動では聞いたり話したりすることができていても、1対1では自信がも

てない児童もいる。そういった児童を把握し個別に支援していくための手だての検討も必要だと考える。

引用文献

- [1] 高橋美香・松波紀幸, “児童の英語学習機会充実等による教育効果の検証－都内公立小学校第6学年意識調査の分析を通して－,” 帝京大学教職センター年報, 第8号, pp.8-15, 2021.
- [2] 文部科学省, 小学校学習指導要領, 文部科学省, 2017.
- [3] 文部科学省, 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック, 2017.
- [4] 文部科学省, 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編, 2017.
- [5] 荒川区教育委員会, 荒川区小学校英語科指導指針(改訂), 2020.
- [6] 荒川区立 尾久第六小学校, “令和元・2・3年度 荒川区英語教育重点校・第17回 全国小学校英語教育実践研究会 東京大会 研究紀要・学習指導案集,” 2022.

【付録 1】単元の指導と評価の計画

時	目標◆・活動○【】	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準＜評価方法＞
1	◆レストランでの丁寧な注文の受け答えの表現や料理名、家族の呼び方を知る。				
	1/3 ○レストランでのやり取りと家族の呼び方を知る。 【Let's Watch】 ○紙面のイラストを見て、どのような場面か推測する。 ○家族の呼び方を確認する。				<div> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> </div>
	2/3 ○動画を視聴し、概要を聞き取る。 ○ペアで聞き取ったことを伝え合い、情報を共有する。 ○再度動画を視聴し、登場人物、料理名、注文の仕方などの情報を確かめながら聞く。				
	3/3 ○出てきた料理名の言い方を確認する。				
2	◆だれがどのメニューを選んだのか聞き取る。				
	【Let's Listen 1】 ○紙面に出てくる登場人物、料理名と値段の言い方を全体で確認する。 ○音声を聞き、誰が何を注文したかを聞き取り、□に数字を記入する。 ○ペアで確認後、全体で内容を確認する。 ○登場人物が注文したメニューの合計を英語で言う。	聞			<div> <p>「聞くこと」の記録に残す評価</p> <p>◎食べ物や料理、家族や値段、注文する表現、What would you like? How much? Check, please? 等の基本的な表現について理解している。</p> <p>＜行動観察＞</p> </div>
3	◆世界の国々の料理・食べ物に関心をもち、おすすめしたい地元の料理を考える。				
	1/3～3/3 【Let's Listen 2】 ○紙面の国旗や料理の写真を見て推測する。知っていることがあれば全体で共有する。 ○①の音声を聞いて、聞き取れた言葉を日本語でメモする。 ○ペアで聞き取れた言葉を情報交換する。 ○再度聞き、聞き取れなかった言葉をメモする。 ○聞き取れた情報を全体で共有する。	聞			<div> <p>「聞くこと」の記録に残す評価</p> <p>◎食べ物や料理、家族や値段、注文する表現、What would you like? How much? Check, please? 等の基本的な表現について理解している。</p> <p>＜ワークシート・行動観察＞</p> </div>
					※モジュール実施

4 本 時	<p>◆丁寧な表現を使って、値段の尋ね方や答え方のやり取りができる。</p> <p>○友達の欲しいものを聞いて、注文された食べ物を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでピザの注文のやり取りをする。 トッピングメニューの中から、自分の好きな具材を選び、pizzaを注文する。 店員役は、相手の注文に応じてオーダーシートに記入したり、シートにマグネットを貼ったりして、注文内容を完成させる。(オーダーシートを基に、合計金額を出して、値段を相手に伝える) 	や 聞			<div>「聞くこと」の記録に残す評価</div> <p>◎何を注文されたのか、いくらなのかを聞き取る技能を身に付けている。</p> <p><ワークシート・行動観察></p> <div>「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価</div> <p>◎レストランで注文をしたり、注文を受けたりする技能を身に付けている。</p> <p><ワークシート・行動観察></p>
5	<p>◆オリジナル・メニューを考えて書き、友達に紹介する。</p> <p>1/3</p> <p>○オリジナル・メニューを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> メニュー作りの説明を聞く。 どんなメニューにしたいか、理由と共に考える。 メインの料理2つとその値段を巻末ワークシート②の4線の上に書き写したり、絵を描いたりする。 <p>2/3</p> <p>○巻末シール③からサイドメニューを選んで貼り、メニューを完成させる。</p> <p>3/3</p> <p>○個別に練習する。</p> <p>○グループに自分のメニューの紹介と理由を伝える。</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> <div> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康ヘルシーメニュー 外国人観光客向けメニュー ご当地メニュー 世界の料理メニュー スポーツ選手向けメニュー 友達向けメニュー </div> <p>※モジュール実施</p>

6	◆オリジナル・メニューを使って、レストランでのロールプレイをする。			
	<div>○Final Activity</div> <div>おすすめメニューを使って、レストランでのロールプレイをしよう</div> <p>○発表例や指導者のやり取りを見て、活動のイメージをつかむ。</p> <p>○丁寧な注文の受け答えや値段の尋ね方、料理名の言い方を確認する。</p> <p>○オリジナル・メニューを使ってレストランでのロールプレイをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やり取りをするときに気を付けることを確認する。 ・前半と後半で役割（店員、客）を交代してやり取りをする。 ※店員は電卓や記入用シート（ワークシート編）等を使用。 ・指導者の中間評価を聞き、活動の振り返りをして、後半につなげる。 ・役割を交代してやり取りをする。 	や	や	<div>「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価</div> <p>◎自分たちが作ったオリジナル・メニューを、相手に伝わるように配慮しながら、注文したり受けたりしている。</p> <p><ワークシート・行動観察></p> <p>◎自分たちが作ったオリジナル・メニューを、相手に伝わるように配慮しながら、注文したり受けたりしようとしている。</p> <p><ワークシート・行動観察></p>
7	◆オリジナル・メニューを使って、レストランでのロールプレイをする。			
	<p>1/3～3/3</p> <div>○Final Activity</div> <div>おすすめメニューを使って、レストランでのロールプレイをしよう</div> <p>○オリジナル・メニューを使ってレストランでのロールプレイをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やり取りをするときに気を付けることを確認する。 ・前半と後半で役割（店員、客）を交代してやり取りをする。 ※店員は電卓やオーダーシート等を使用する。 ・指導者の中間評価を聞き、活動の振り返りをして、後半につなげる。 ・役割を交代してやり取りをする。 	や	や	<div>「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価</div> <p>◎自分たちが作ったオリジナル・メニューを、相手に伝わるように配慮しながら、注文したり受けたりしている。</p> <p><ワークシート・行動観察></p> <p>◎自分たちが作ったオリジナル・メニューを、相手に伝わるように配慮しながら、注文したり受けたりしようとしている。</p> <p><ワークシート・行動観察></p> <p>※モジュール実施</p>

※表中の「知技」は「知識・技能」、「思判表」は「思考・判断・表現」、「態度」は「主体的に学習に取り組む態度」を表す。また、「聞」は「聞くこと」、「や」は「話すこと[やりとり]」を表す。

【付録 2】 本時の学習（4 / 7）

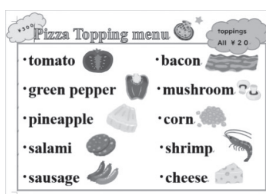
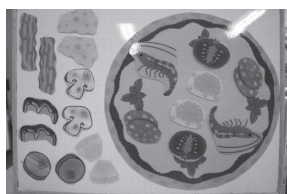
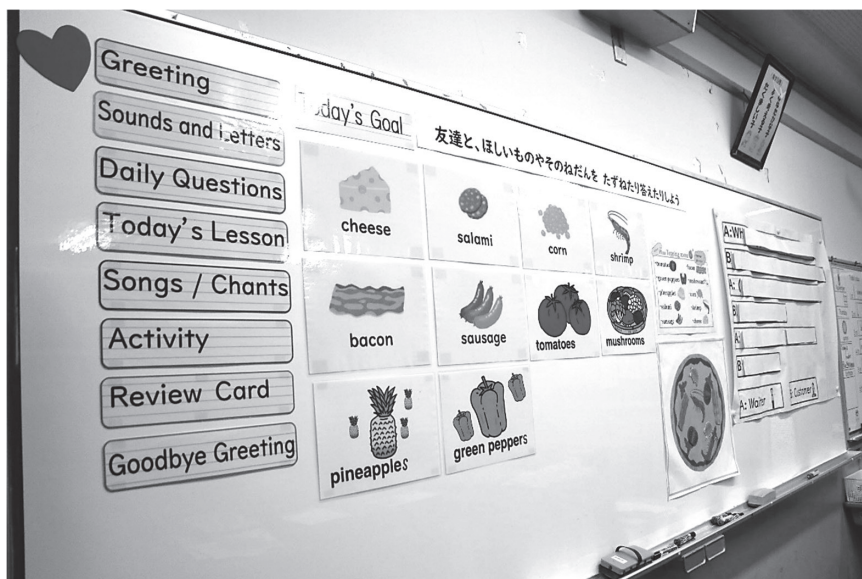
目標： 丁寧な表現を使って、値段の尋ね方や答え方のやり取りができる。

語彙/表現： What [toppings / drink/ ice cream] would you like? I'd like～. How much?

食材 tomato, bacon, green pepper, mushroom, pineapple, corn, salami, shrimp, sausage 等

フロー	○学習活動 ・主な英語表現・語句	・ Classroom English ※留意点 ★評価 () 評価方法
①Greeting (1分)	○日直が挨拶をする。	・ Today's leader, come to the front.
②Daily Questions (2分)	○日直が質問し、全員が答える。	
③Sounds and Letters (5分)	歌「a-i Review Chant(Lowercase)」 (YouTube: Super Simple ABCs) ・ 同じ初頭音の単語を確認する。	他の例: 歌「Animal Jingle」「Food Jingle」 「Countries Jingle」 (We can! 1)
④Today's Lesson (5分)	○スモールトークを聞いたり、質問に答えたりする。(物の値段) ○今日のめあてを知る。 <div>友達とほしいものやそのねだんをたずねたり答えたりしよう</div> ○丁寧な注文の受け答えや値段の尋ね方、料理の言い方を確認する。 ・ 料理名、3つ以上注文するときの言い方を確認する。	※写真や絵カードなどを用意する。 Today's goal is ～ ※絵カードを提示する。 ※I'd like A, B, C and D の言い方に慣れ親しむ。
⑤Chants (3分)	○チャンツ「What would you like?」	Let's chant. Are you ready?
⑥Activity (25分)	○友達の欲しいものを聞いて、注文された食べ物を作成させる。 ・ 活動例や指導者のやり取りを聞き、活動のイメージをもつ。 ・ やり取りに必要な表現を確認する。 <div>例 A: What toppings would you like? B: I'd like tomato, bacon, green pepper and mushroom. A: Tomato, bacon, green pepper and mushroom. OK. B: How much is it? A: It's 380 yen. Here you are. B: Thank you.</div>	Let's play. ※トッピングの尋ね方や食材の言い方を練習する。 ★【知・技】何を注文されたのか、いくらなのかを聞き取る技能を身に付けている。(ワークシート・行動観察)
	・ 店員役は、相手の注文に応じてオーダーシートに記入したり、ホワイトボードに具材を貼ったりして、注文内容を作成させる。	★【知・技】レストランで注文をしたり、注文を受けたりする技能を身に付けている。 (ワークシート・行動観察)
⑦Review card (2分)	○振り返りカードを書く。	Write the review card. ※良いコメントをクラスに紹介する。
⑧Goodbye Greeting (2分)	○日直が挨拶をする。	That's all for today.

<板書計画>



学んだことを次に生かすために、ふりかえりをしよう () grade class () No. ()

Review Card Name ()

[Lesson 7] [A・B・C・D]

No.		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
①	先生や友だち、動画を見て言っている英語の内容がわかった。							
②	食べ物や飲み物を英語で言うことができた。							
③	丁寧な表現で注文することができた。							
④	注文内容聞いて、その値段を言うことができた。							
⑤	友達の注文を聞いて、それに合わせた受け答えをすることができた。							
⑥	相手の目を見て、英語を話したり、聞いたりすることができた。							
⑦	相手の話に反応(リアクション)を入れながら聞くことができた。							
⑧	アルファベットの音になれることができた							

Final Activity
おすすめのメニューを使って、レストランのロールプレイができた。

できるようになったこと・分かったこと・感想など

① _____

② _____

Order sheet All ¥200

Toppings	check
tomatoes	<input type="checkbox"/>
bacon	<input type="checkbox"/>
green peppers	<input type="checkbox"/>
mushrooms	<input type="checkbox"/>
pineapples	<input type="checkbox"/>
corn	<input type="checkbox"/>
salami	<input type="checkbox"/>
shrimp	<input type="checkbox"/>
sausage	<input type="checkbox"/>
cheese	<input type="checkbox"/>
Total	¥
Pizza ¥300 +Toppings	→

-
- i 本稿で述べる「望ましい姿勢」とは、児童が「話しかけられた際に、英語もしくはそれを補うジェスチャーで回答する」姿勢(高橋・松波 2021)を指す。
- ii 本稿で述べる「『必然性』が生まれる学習内容」とは、学習指導要領解説に倣い、機械的なやり取りでなく「相手意識」や「目的意識」をもって、質問したり答えたりする学習内容を指す。また、同じ学級内の児童同士でやり取りする場合に、多くは知っている者同士であることから、知っていることを伝え合うようなことは避け、学習意欲をもたせるよう配慮する。
- iii ここでのinput, outputとはインプット（入力）、アウトプット（出力）を意味する。例えばガイドブック p.25には、「外国語学習では、「インプット（入力）を十分に行ってからアウトプット（出力）させるようにする（中略）」という表現がされることもある。単元構想の際、この流れを意識するとよい。」と記述されている。
- iv 本区は平成15年5月構造改革特別区域の認定を受け、小学校の教育課程に英語科を設置し、平成16年度から区内全小学校において第1学年から週1回の英語授業を実施している。平成20年度からは、同趣旨を引き継いだ教育課程特例校制度の下、英語教育を実施している。同区で策定した「荒川区学校教育ビジョン」の施策の柱である「夢につながる主体的な学びを推進する」の重点項目「国際コミュニケーション能力の育成」の実現のため、「荒川区小学校英語科指導指針」が策定されている。今回の学習指導要領改訂に併せ、同指導指針も改訂（令和2年3月）され、同指針に基づき、令和3年3月に、「荒川区小学校英語科 Lesson Plan」が作成された。